

外国語活動

外国語活動の内容は何か。

新学習指導要領の内容をしてみると、以下のような構造になっている。

〔第5学年及び第6学年〕

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
 - (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
- 2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
 - (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
 - (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

★ 内容の要点について

- ・ 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図るための内容と、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めるための内容との二つとした。
- ・ 目標にある「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ」ることは、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めさせる内容の中に含めた。

★ 内容の構成

- (1) 学年ごとではなく、2学年を通じて達成される内容である。
- (2) コミュニケーションに関する事項

外国語を用いて「コミュニケーションを図る楽しさ」を体験

⇒

コミュニケーションへの積極性の育成

⇒

言葉や文化についての理解の深まり

ア 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。

○ 「楽しさを体験する」とは

外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさであって、ゲームや活動自体のおもしろさではないことに留意する。

児童が使える外国語を駆使し、さまざまな相手と互いの思いを伝え合い、コ

コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験することが大切である。

イ 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。

- 外国語を初めて学習することから、児童に過度の負担とならないようにする。
- 挨拶や自己紹介など、音声を中心とした活動は、柔軟な適応力のある小学校段階になじむものである。
- 従来の中学校外国語科では、指導において「聞くこと及び話すこと」の言語活動に重点を置くこととされていたが、同時に「読むこと及び書くこと」も取り扱うことから、中学校に入学した段階で4技能を一度に取り扱う点で、指導上の難しさも指摘されていた。



外国語を「聞いたり、話したりすること」を主な活動内容に設定した。

ウ 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

- コミュニケーションへの積極性が高まり、言語文化についての理解が深まることをめざす。英語の基本的な表現は、コミュニケーションの手段として用いる。
- 基本表現等については、小学校2年間ならびに中学校以降の学習において、くり返し取り扱うことを考慮する。多くの表現を覚えたり、細かい文法事項を理解させるような活動にならないようにする。

(3) 言語や文化に関する事項

ア 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。

- 児童が多くの表現を覚えたり、細かい文構造などに関する抽象的な概念について理解させたりすることは目標としていない。一方、音声面に関しては、児童の柔軟な適応力を十分生かすことが可能である。



- ・ 外国語をツールとして扱う。
- ・ リズムや発音等において日本語との違いがあることを知る。
- ・ 言葉には様々な特徴があることを知る。
- ・ 日本語の豊かさなどに気付かせる。
- ・ スキル面はコミュニケーション活動等を行いながら体得させる。

イ 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。



- ・ 外国の文化のみならず我が国の文化を含めた様々な国や地域の生活、習慣、行事などを積極的に取り上げる。
- ・ 児童にとって身近な日常生活における食生活や遊び、地域行事などを取り扱う。
- ・ 多様な文化の存在を知り、日本の文化と異文化との比較により、様々な見方や考え方があることに気付かせる。

ウ 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。



- ネイティブ・スピーカー（ALTや留学生など）や地域に住む外国人など，異なる文化をもつ人々との交流などの体験を通して，児童自ら気づき理解を深めるようにする。